

(仮称) 柏北部東地区新設小学校の通学区域案等に関する関係町会等からの質疑及び応答

1 説明期間

令和元年12月中旬～令和2年2月中旬まで

2 ご参加いただいた方々(合計326名)

(1) 関係町会・自治会の役員等

- ① 大室町会
- ② 小青田町会
- ③ 船戸町会
- ④ 大青田町会
- ⑤ 山高野町会
- ⑥ ラプリマチッタ自治会
- ⑦ ラ・カンパーニャ自治会
- ⑧ レクセル柏たなかサニープレイス
- ⑨ デュオヒルズ・ザ・グラン
- ⑩ シャリエ柏たなか
- ⑪ ライオンズ柏たなかステーションプラザ
- ⑫ レーベンリヴァーレラ・フィエルテ
- ⑬ カムカムタウンウィズ柏

(2) 関係学校PTAの役員等

- ① 田中小学校PTA
- ② 田中北小学校PTA

3 開催場所

各町会の会館，田中近隣センターもしくは北部近隣センター

4 説明の要点

- ・田中エリアの児童数増加に伴う大幅な教室不足に対応するため，2023年(令和5年)4月開校を目指し，学校用地に新設小学校を整備する。
- ・新設小学校は，学校の適正規模に配慮し，児童にとって良好な教育環境を確保するため，

- ① 田中北小学校からの移転新築としたい。
 - ② 大室1～3丁目は田中小学区のままとしたい（新設小学区には含まない）
 - ③ 小青田の通学区域は田中小学区から新設小学区へ変更したい。
- ・付随する課題として、①遠距離通学対策，②田中北小学校跡地の有効活用が挙げられる。

5 質疑及び応答

（以下，町会及びPTA等からの質問や意見を「◆」，柏市教育委員会からの回答を「⇒」とする。）

通学区域について

◆学校の適正規模や児童にとっての良好な教育環境の確保の観点からも、教育委員会が示した学区再編案には賛成する。（意見）

◆今回、学区が変更となる小青田の児童は、児童の交友関係等を考慮して田中小学校か新設小学校か選択することができるようにしてほしい。

⇒現在、田中小学校に通学している小青田にお住まいの児童については、学区外申請によりできる限り児童一人一人の希望に沿った対応をすることができるよう配慮したいと考えております。

また、兄弟姉妹は同じ学校へ通学することができるよう配慮することや、他の自治体では、児童の交友関係を考慮し、高学年のお子様を中心に選択制を導入しているケースも参考としてまいります。

◆田中北小学校が新設小学校へ移転すると、今の田中北小学校の児童の中には、新設小学校よりも十余二小学校の方が距離的に近くなる児童もいると思うが、その場合、十余二小学校へ通学することはできるのか。

⇒現在でも、通学上の安全等を理由とした学区外就学は受け入れており、受入れ人数に制限はありますが、可能な限り柔軟に対応する予定です。

◆大室 1～3 丁目が新設小学区に含まれないこととなると、当該エリアの住民の中には新設小学校へ就学を希望する方もいると思う。現在、大室 1～3 丁目の住民からは町会役員が選出されていないため、令和 2 年 4 月以降に再度、説明を行っていただきたい。

⇒了解しました。大室 1～3 丁目の町会役員の方々を含めて再度、4 月以降に説明させていただきたいと思います。

◆大室からは新設小学校までの方が距離は近く道路も整備され安全と感じる一方、子ども会など大室町会内のつながりも大切と感じる。田中小学校と新設小学校を選択することはできないのか。

⇒大室の中でも場所によっては新設小学校の方が田中小学校よりも近

い方々もおり，児童の通学上の安全はもちろん重要と認識しています。ただ，児童にとって良好な教育環境を確保する上では，学校の適正規模に配慮することも非常に重要であり，現時点では大室 1～3 丁目の児童を新設小学校で受け入れることは困難と考えていますが，田中小学校につきましても校舎の建て替え等を通じて，魅力ある学校となるよう努めてまいります。

◆「新設小学校は田中北小学校からの移転新築とする」ことは決定事項なのか。田中北小学校が小規模校化することを考慮し北小の児童を新設小学校へ通うことができるようにすることは理解できるが，学校の名前や校歌，校章などの田中北小学校をそのまま新設小学校へ引き継ぐことには反対である。

⇒児童にとって良好な教育環境を確保する，という点を第一に考え，新設小学校は田中北小学校からの移転新築とする案を説明させていただきました。田中北小学校の校名等を新設小学校へ引き継いでほしいと地域住民や田中北小学校 P T A から要望をいただいておりますが，現時点で決定しているものではなく，通学区域を設定した後に決定したいと考えております。

◆開校する前に田中北小学校へ学区外就学することはできるのか。

⇒柏市では指定学区制を基本としており，特別の事情がある場合に学区外就学の申請を受け付けています。田中北小学校は児童数が増加傾向にあり教室数にも限りがある中で，まずは学区内の児童を全員受け入れることを最優先で考える必要があります。田中北小学校への学区外就学の可否については，申請理由とあわせてその時の児童数や学級数をもとに決定します。例年，新入学児童の学区外就学の申請期間は，入学前年の 9 月～10 月頃までとなっており，広報誌等でお知らせしております。

◆「通学区域審議会」とはどのような組織か。

⇒通学区域について審議する教育委員会の附属機関であり，構成員は，市立小中学校長，市立小中学校 P T A 役員，市議会議員，学識経験者，公募委員等から成ります。委員の選任にあたりましては，直接，利害関係を持つ可能性のある田中地域の方々以外にお願いしています。

通学路の安全対策について

◆田中小学校までの通学路には危険箇所が多い。安全対策を実施してほしい。

⇒早期に教育委員会だけで対応可能なことと、警察や道路管理者と協議・調整が必要な事項を整理し対応してまいります。

◆新設小学校予定地北側の第一公園付近の安全対策を早急に行ってほしい。信号機や横断歩道も必要と考える。

⇒道路管理者や警察と協議し、優先道路を変更することなどを検討しています。引き続き、関係部署と連携し対応してまいります。

◆田中北小学校を新設小学校へ移転した場合、一部の児童の通学距離が遠くなることを踏まえてスクールバスを導入してもらいたい。

⇒スクールバスについては現時点で運行するか未定ですが、移転により、現在の田中北小学校の一部の児童の通学距離が遠くなることや、大型車両を含めた交通量の多いエリアである地域特性も踏まえて、通学路の安全対策に取り組みます。

◆柏たなか駅北側の交差点に最近横断歩道が設置されたが、今後、信号機は設置されるのか。

⇒該当の交差点は、現在も田中小学校への通学路となっており、柏警察等との協議を踏まえて横断歩道が設置されました。引き続き、関係機関と連携し、必要な対策を講じてまいります。

◆スクールバスを運行する場合の利用料は無料としてもらいたい。一つの案として、個別に各家庭をバスで回することは道幅の問題もあり現実的ではないため、いくつか集合ポイントを設定することはいかがか。

⇒仮にスクールバスを運行する場合には、児童に集合ポイントまで集まってもらいバスに乗車させることも一つの案としてあると思います。利用者負担については、スクールバスを導入している市町村でも対応はまちまちですが、導入する場合には、費用面も含めて持続可能で実現性の高い方策を検討する必要があると考えています。

◆スクールバスを運行する場合には、学年やクラブ活動の有無によって児童の登下校の時間帯が異なることを考慮し、複数便走らせる必要がある。

⇒スクールバスを運行する場合には、時間帯をずらして複数便運行することも検討してまいります。

◆現在の田中北小学校の通学路の中には、電灯も少なく下校時間にかなり暗く危険となる。防犯カメラや防犯灯の設置を検討してほしい。

⇒児童の通学上の安全を確保する一つの手段として、スクールバスの運行やその他の安全対策と合わせて検討してまいります。

◆スクールバスを運行するかはできる限り早く決めてもらいたい。

⇒現時点ではスクールバスの運行可否を判断するタイミングをお伝えすることはできません。スクールバスの可否は最終的には市議会での審議を経て予算措置をするタイミングとなりますが、新設小学校の通学区域決定後、市関係部署との調整をできる限り早期に行ってまいります。

◆現在の田中北小学校の児童が新設小学校へ通うには、国道・県道をまたいで通学することとなり危険である。新設小学校が開校し、児童の通学が始まってからでは対応が遅い。

⇒通常、通学路は学校長が決定するものですが、御指摘のとおり新設小学校の開校までに通学路の安全対策を講じる必要があることから、想定通学路を設定した上で、道路管理者や柏警察等と協議・連携して安全対策を進めます。

◆県道我孫子関宿線では、田中小学校の児童、田中中学校生徒、通勤自転車等が混在し非常に危険な状況であり、対策が必要である。

⇒危険箇所があることは承知しており、千葉県に安全対策を要望しているが実現していない現状です。今後、児童生徒数がさらに増えることも踏まえ、柏警察等の関係機関と連携するとともに、千葉県にも継続して要望してまいります。

◆田中小学校の外周道路が狭く危険であるため、道路を拡幅してほしい。

い。

⇒児童の通学上，問題があることは認識しております。道路管理者等と協議し対策を講じてまいります。

◆道路の拡幅や整備等のハード面の対策も重要であるが，地域住民による見守りなどのソフト面の対策も重要である。（意見）

◆県道我孫子関宿線を市立柏高校生が自転車でかなりのスピードで通学しており危険なため，学校へ指導してほしい。

⇒市立柏高校にいただいた御意見を伝え，生徒が危険な自転車運転をしないよう伝えてまいります。

学校整備について

◆新設小だけでなく、田中小学校も建替えにより魅力ある学校としてほしい。

⇒田中小学校は令和4年4月までに第一校舎の建て替えを行います。現在、基本設計を進めており、新学習指導要領に基づき、主体的で多様な学びを行うことができる魅力ある学校となるよう努めてまいります。

◆新設小学校の校地に含まれる保存樹林の維持管理については適切に行ってもらいたい。管理方法や利用方法なども含めて検討してもらいたい。

⇒新設小学校の校地に含まれているため、教育活動にも役立てる樹林とすることができるよう、維持管理方法とあわせて検討してまいります。

◆新設小学校は最大で46学級の学校になるということか。

⇒あくまでも児童数の推計によると、最大で46学級になることを想定しており、その中には特別支援学級6学級を含んでいるため、普通学級数は最大で40学級を見込み、1学年あたり6～7学級となる想定です。

◆新設小学校は大規模な学校になるとの説明であるが、低層化は可能なのか。柏の葉小学校は低層で整備されたと聞いている。

⇒新設小学校は40学級を超える大きな学校となる見込みであり、限られた校地の中で必要教室数を確保するため、4階建ての学校として整備する予定です。

柏の葉小学校は開校時の校舎は2階建てで整備しましたが、柏の葉エリアの児童数も増加しており、現在、令和4年4月の供用開始を目指し3階建ての校舎を増築する予定です。

◆新設小学校が4階建てとなる場合、エレベーターは設置されるのか。

⇒新設小学校ではバリアフリーに配慮し、エレベーターも設置する予定です。

◆正門の位置や数はどうなるか。また、グラウンドを緑化する予定は

あるか。

⇒通常、小学校には2～3カ所の出入り口を設置しており、新設小学校ではどちらの方面からどのくらいの児童が通学するのか、といったことも考慮して正門の位置を検討しており、現時点の案としては、正門を学校敷地の東側または北側の大通りに面した箇所に設置することを検討しています。また、あわせて、通用門を正門の反対側（敷地の南側または西側）に設置することも計画しています。

グラウンドの緑化については、コスト面や管理面から行う予定はありませんが、柏の葉小学校のように、できる限り周辺の住宅に砂ぼこり等の悪影響を及ぼすことのないように配慮した整備に努めてまいります。

◆新設小学校の整備についてワークショップを行っているとのことだが、ワークショップに参加していない住民が意見を言う機会はあるか。

⇒ワークショップは町会や学校PTA、学校教員等の代表者の協力のもと開催し、基本設計業務の参考としたいと考えております。結果についてはまとまった段階で市のホームページで公開する予定です。

新設小学校に関する意見はいつでも、どなたからでも受け付けており、ワークショップに参加していない方々からの意見も個別に伺いますので、お問い合わせください。

◆新設小学校は防災上の拠点としての役割も担うと思うが、どのような設備を検討しているか。

⇒他の市立小中学校と同様に、新設小学校も避難場所及び避難所となるため、防災備蓄倉庫など防災拠点として必要な施設を整備する予定です。

◆このエリアは共働き世帯も多いが、学童保育施設は併設されるのか。

⇒新設小学校の敷地内にこどもルームを整備する予定です。

◆このエリアに住宅を購入したにも関わらず学校整備のタイミングが遅く、自分の子供を新設小学校へ通わせることができないことに不満を持つ住民も多い。工事期間中の安全対策、工事業者の路上駐車や喫煙など、近隣住民に十分に配慮して工事を進めてもらいたい。

⇒路上駐車や喫煙などは契約上の禁止事項としてうたっております。
工事期間中の安全対策と合わせて近隣の方々に御迷惑のないよう配慮
して工事を進めてまいります。

◆現在、田中小学校は体育館の修繕や仮設校舎の建設など工事が多く、
一部の授業が制限されている。各学校の授業の質を一定以上に保つよ
う配慮してほしい。

⇒田中小学校では、新設小学校開校の1年前の令和4年4月に第一校舎
の建て替えを完了し、児童にとって良好な教育環境の確保に努める予
定であります。それまでの間、仮設校舎の建設、第一校舎の建て替え
等の工事が続き、御迷惑をおかけし申し訳ございません。

スケジュール

◆令和 5 年 4 月開校というスケジュールが遅れる可能性はあるのか。

⇒現在、用地の購入や基本設計を進めており、令和 3～4 年度に建設工事を実施し、特段の事情が発生しない限り、予定どおり令和 5 年 4 月に開校する予定です。

◆今後、どのようなスケジュールで通学区域を決定していくのか。

⇒平成 30 年度から関係町会・自治会・学校 P T A を中心に説明を重ねており、このたび、個別に関係町会等の皆様に具体的な通学区域案を説明させていただきました。

今後、柏市通学区域等審議会において通学区域案について慎重な審議を重ね、令和 2 年度中に決定していきたいと考えております。なお、決定した通学区域案は町会回覧、学校を通じた周知、保育園や幼稚園を通じた周知、広報かしわ、市ホームページ等により、できる限り広く周知してまいります。

児童数推計について

◆このエリアには新しい住宅が建設されているが、それら住宅に住む人数も考慮して推計しているのか。

⇒今後、定住することが見込まれる児童についても計画人口に基づき考慮し推計しておりますが、定住するタイミングや出生する児童数など不透明な要素も多いため、推計は、高位・低位の 2 パターンで幅を持たせて行っています。

なお、学校整備にあたっては、教室数の不足が生じることのないように高位推計に基づき必要な教室数を確保してまいります。

その他

◆児童数が増加しているということは、将来、このエリアの中学生も増加すると思うが、田中中学校での受け入れは可能か。

⇒今後、田中中学校の生徒数も増加することが見込まれますが、田中中学校はすぐに教室数が不足する状況ではありません。また、田中中学校は他の中学校と比べて校地面積が広いことから、毎年度、生徒数の実数や人口の張り付き状況等をしっかり確認し、タイミングを逸することなく校舎を増築して対応する予定です。

なお、現在、田中中学校には約500人の生徒がおりますが、同程度の広さの市内の他の中学校には生徒数が約800人の中学校もございます。

◆新設小学校開校後のPTAの運営はどうなるのか。田中小学校と田中北小学校でのこれまでのPTA活動は考慮されるのか。

⇒現時点ではPTA活動の運営方法については未定である。今後、通学区域決定後、田中小学校と田中北小学校の間で必要な調整を行いながら決定していく予定です。

◆新設小学校における教員の配置はどのようになる予定か。田中小学校から転校となる児童もおり配慮が必要である。また、大規模な学校となると教員不足を補うために経験年数の少ない新任教員が多くなることも心配している。

⇒教員の具体的な配置はこれから検討していくことであるが、田中小学校及び田中北小学校の両校の児童が不安なく通学することができるよう、大規模校での学校運営とあわせて慎重に検討します。

◆今回、説明会に参加できなかった人もいる。また、他の町会でどのような意見があったのかも把握したい。今回の一連の説明会で出された意見を共有してもらいたい。

⇒全ての関係町会等への説明が終わった後に皆様からいただいた意見を取りまとめ、町会長を通じて情報共有させていただきます。

◆町会やPTAの役員だけでなく保護者向けの説明会を実施する予定はないか。町会の役員は高齢の方でお子さんがいない人も多いと思う。

より広く意見を聴いた方がよいのではないか。

⇒これまで、関係町会・自治会・学校 PTA には個別に説明会を開催させていただき、説明会に参加できなかった方々には電話や郵送等で説明会でお話した内容をお伝えしています。保護者の方々や町会等役員以外の方々への説明及び周知方法につきましては、できる限り広く皆様から意見をいただくことができる方法について、持ち帰り検討させていただきます。